

## 農作物病害虫発生現況情報（5月） 水稻編

## 1 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

- (1) 巡回調査では、発生施設率は45.5%（平年24.8%）で平年より高かったが、発生箱率は0.08%（平年0.17%）で平年よりやや低かった（表1）。
- (2) 腐敗症状苗25サンプルについて菌の分離を行った結果、もみ枯細菌病が15点、苗立枯細菌病が8点であった。なお、菌種の判別ができなかったものが2点あった。

## 2 苗立枯病

- (1) 巡回調査では、発生施設率は12.1%（平年30.0%）で平年より低く、発生箱率は0.12%（平年0.20%）で平年並だった（表1）。
- (2) 関与菌は、ピシウム属菌（ムレ苗含む）であった。

## 3 ばか苗病

- (1) 県内広く発生が確認されたが、発生箱率は0.12%（平年0.48%）で平年より低かった（表1）。

表1 育苗施設の病害発生状況（調査日：4月28日～5月10日） 単位：巡回調査施設数

調査地域	調査施設数	病害発生施設数			
		細菌病類	苗立枯病	ばか苗病	
県北部	3 (3)	1 (1)	0 (0)	3 (2)	
県中部	16 (16)	7 (7)	1 (3)	15 (15)	
県南部	11 (11)	6 (4)	2 (2)	11 (10)	
遠野・沿岸部	3 (3)	1 (1)	1 (0)	3 (3)	
合計	33 (33)	15 (13)	4 (5)	32 (30)	
発生施設率 (%)	R 5	—	45.5 (39.4)	12.1 (15.2)	97.0 (90.9)
	平年	—	24.8	30.0	90.7
発生箱率 (%)	R 5	—	0.08(0.17)	0.12(0.07)	0.12 (0.22)
	平年	—	0.17	0.20	0.48

※ ( ) は令和4年の調査結果

※ 平年：H25～R4（10ヶ年）

#### 4 イネミズゾウムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第4半旬に成虫の侵入が確認された（田植日：5月12日）。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、成虫の発生は確認されなかった（平年3.6%）（図1）。

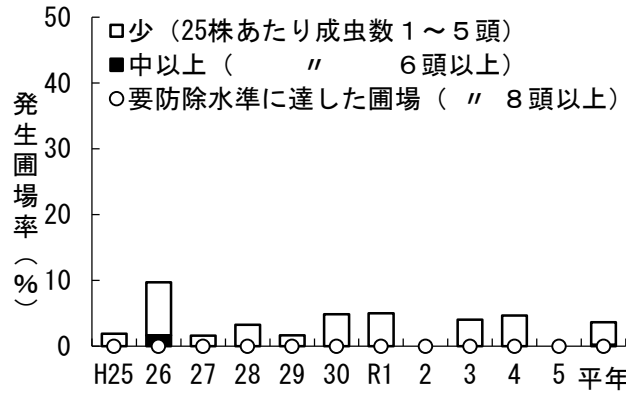


図1 イネミズゾウムシ成虫の発生圃場率の年次推移（5月下旬）

#### 5 イネドロオイムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第5半旬現在、成虫の侵入は確認されていない。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、平年同様に成虫の侵入は認められず、産卵も認められなかった。

#### 6 イネミギワバエ

- (1) 5月下旬の巡回調査では、産卵がみられた圃場率は36.5%（平年18.4%）であり、平年より高かったが、程度は低かった（図2）。

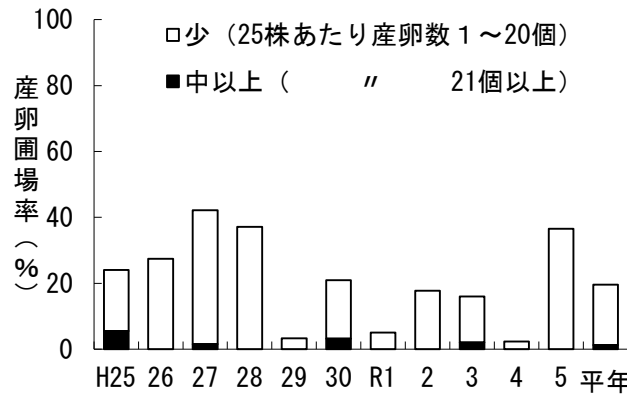


図2 イネミギワバエの産卵圃場率の年次推移（5月下旬）

#### 7 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、5月第2半旬に越冬世代幼虫、第4半旬にアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫が確認された。アカスジカスミカメ成虫の発生は確認されていない（表2）。

表2 基準圃場における斑点米カメムシ類すくい取り調査結果（北上市成田、往復20回振）

調査日	成虫 (頭数)		幼虫 (頭数)
	アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	
5/2	0	0	0
5/9	0	0	10
5/12	0	0	6
5/17	0	4	3
5/22	0	4	7
5/26	0	33	17

# 農作物病害虫発生現況情報（5月） 麦 編

## 1 うどんこ病

(1) 5月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった (図1)。

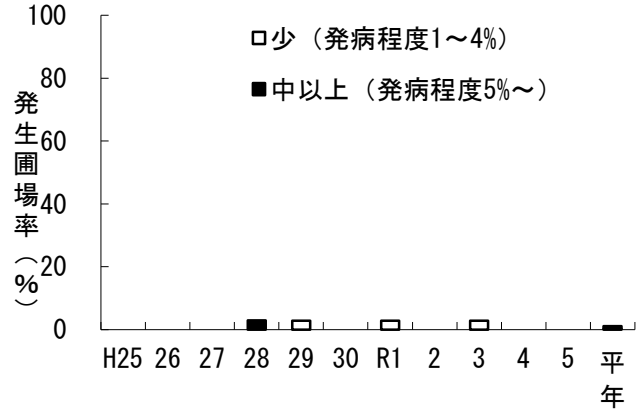


図1 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (5月中旬)

## 2 さび病類 (赤さび病)

(1) 5月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった (図2)。

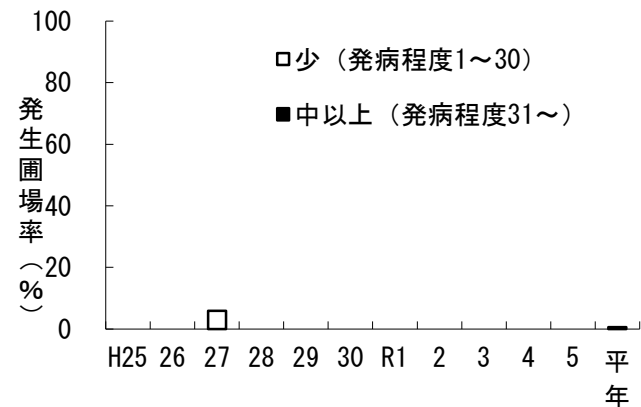


図2 さび病類 (赤さび病) の発生圃場率の年次推移 (5月中旬)

# 農作物病害虫発生現況情報（5月） りんご編

## 1 モニリア病

- (1) 落花期（5月前半）の巡回調査では、発生が確認されなかった（図1）。
- (2) 5月後半の巡回調査では、発生が確認されなかった（図省略）。

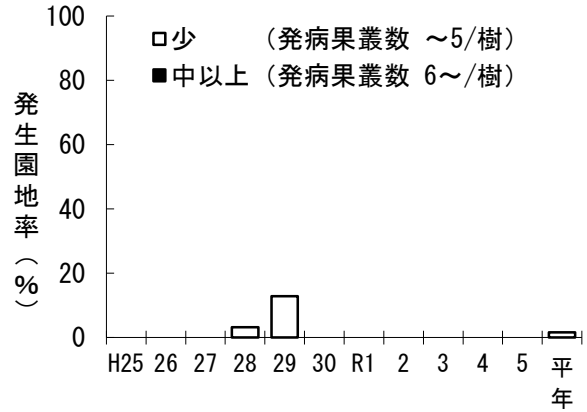


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移（落花期）

## 2 腐らん病

- (1) 落花期（5月前半）の巡回調査での発生園地率は29.0%（平年42.6%）であり、平年より低かった（図2）。
- (2) 地域別では、県中部での発生程度少以上の園地率が13.3%（平年46.7%）であり、平年より低かった（図3）。

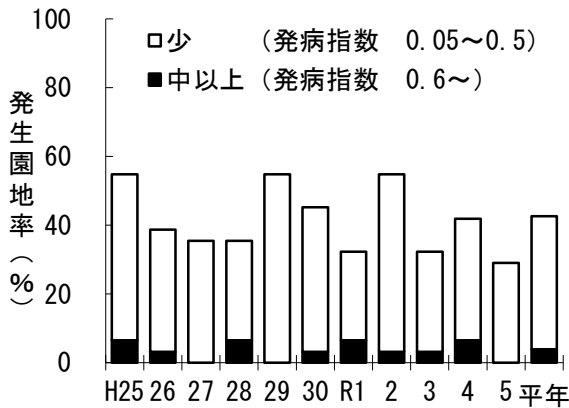


図2 腐らん病の発生園地率の年次推移（落花期）

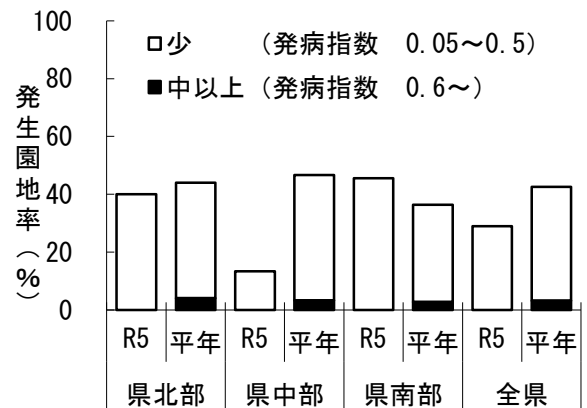


図3 腐らん病の地域別発生園地率（落花期）

## 3 斑点落葉病

- (1) 基準圃場（北上市・スターキングデリシャス）では、5月29日現在、発生が確認されていない（平年初発：6月第2半旬）。
- (2) 落花期（5月前半）の巡回調査では、ふじ、王林ともに発生が確認されなかった（図4）。
- (3) 5月後半調査では、ふじ、王林ともに発生が確認されなかった（図省略）。

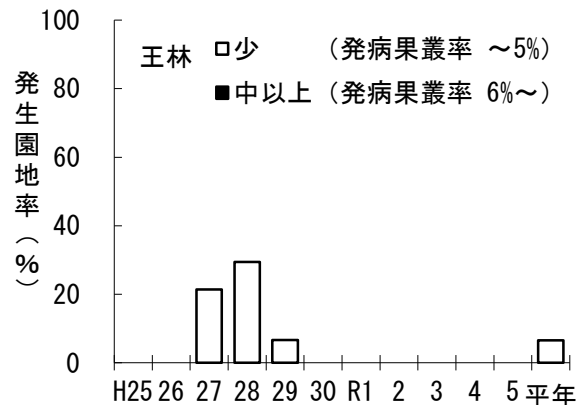


図4 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（落花期、果叢葉、王林）

#### 4 黒星病

- (1) 落花期（5月前半）の巡回調査では、発生が確認されなかった（図5）。
- (2) 5月後半の巡回調査では、発生が確認されなかった（図省略）。

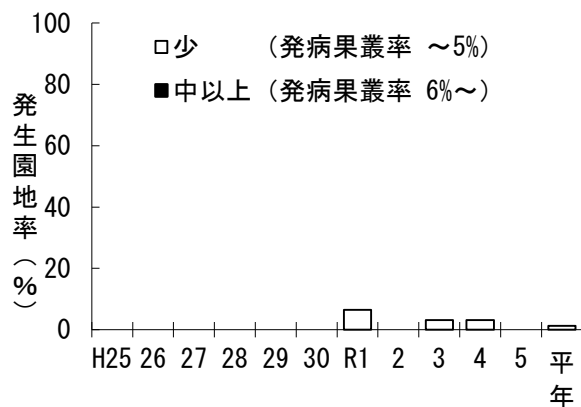


図5 黒星病の発生園地率の年次推移  
(落花期、果叢葉)

#### 5 うどんこ病

- (1) 落花期（5月前半）の巡回調査での発生園地率は3.2%（平年1.6%）であり、平年並だった（図6）。

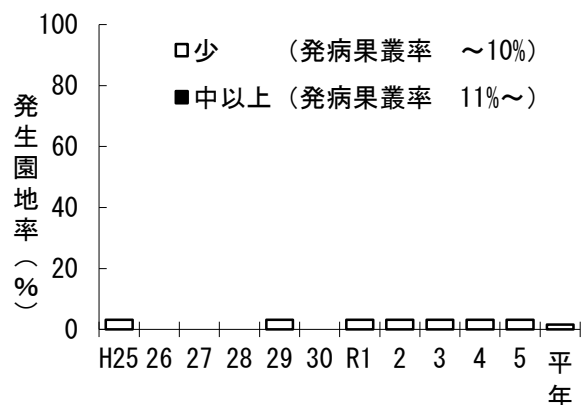


図6 うどんこ病の発生園地率の年次推移  
(落花期、果叢葉)

#### 6 褐斑病

- (1) 基準圃場（北上市、ふじ、無防除）における果叢葉での初発は5月第4半旬であり、過去一番早かった。
- (2) 例年発生が確認されない、落花期（5月前半）の巡回調査では1園地（5/12）、5月後半の巡回調査では2園地（5/23）で発生が確認された。

## 7 リンゴハダニ

- (1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は19.4%（平年11.3%）で平年よりやや高く、5月後半は9.7%（平年23.9%）で、平年よりやや低かった。発生程度中以上の園地は、5月前半は見られず、5月後半では9.7%（平年1.6%）で平年より高かった（図7、8）。
- (2) 5月後半の地域別の発生園地率は、県北部は平年より高く、県中部と県南部は平年より低かった。また、県北部と県中部ではいずれの発生園地も発生程度中以上であった（図9）。

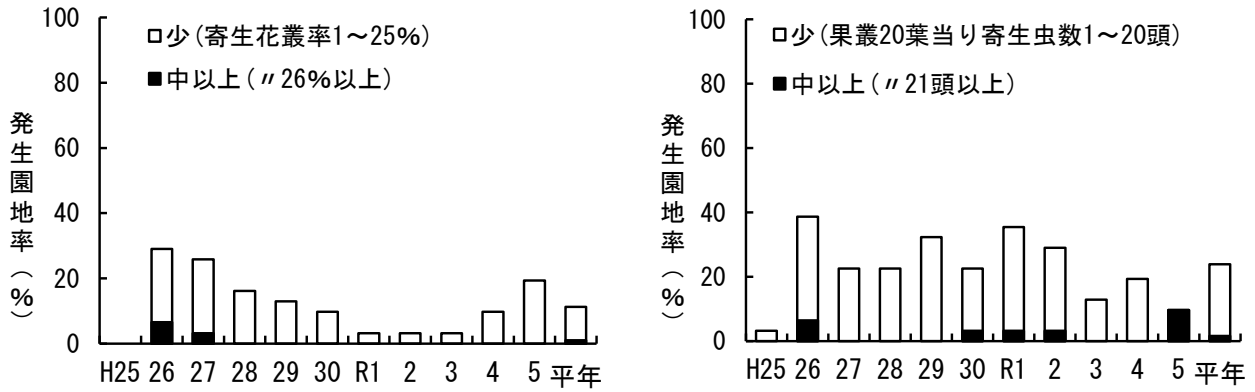


図7 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (左：5月前半、右：5月後半)

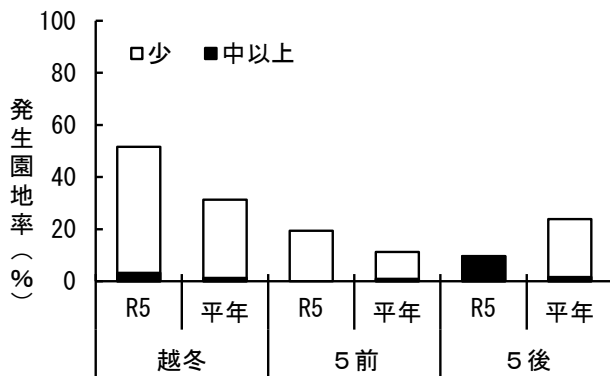


図8 リンゴハダニの時期別発生状況の推移

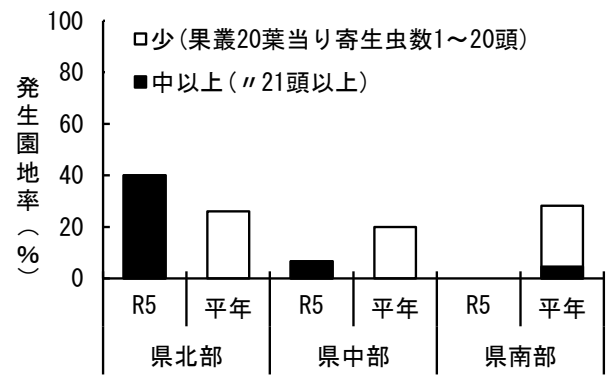


図9 リンゴハダニの地域別発生園地率 (5月後半)

## 8 ナミハダニ

- (1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は12.9%（平年26.8%）で平年よりやや低かったが、5月後半は16.1%（平年18.4%）で平年並だった。発生程度中以上の園地は、5月前半は9.7%（平年0.3%）で平年より高く、5月後半は9.7%（平年9.4%）で平年並だった（図10、11）。
- (2) 5月後半の地域別の発生園地率は、県北部は平年より高く、県南部及び県中部は平年より低かった。発生程度中以上の園地は、県北部で見られ、平年より高かった（図12）。

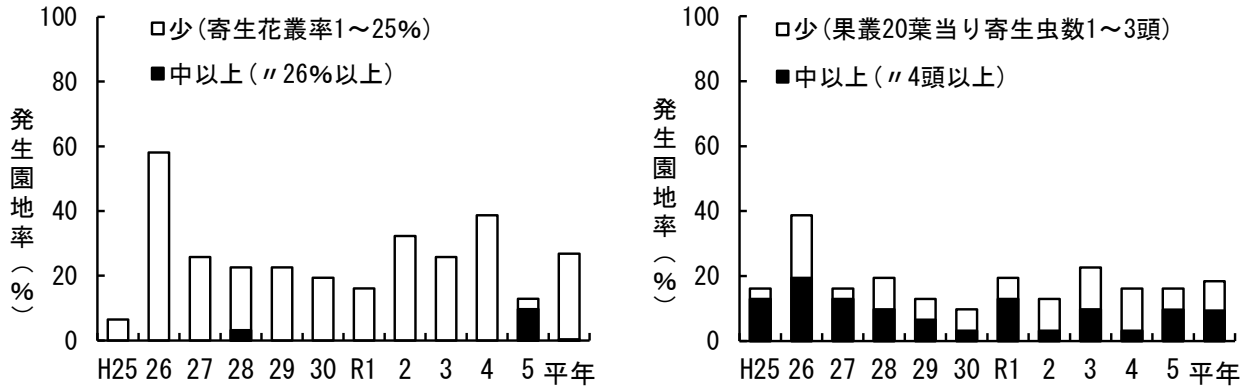


図10 ナミハダニの発生園地率の年次推移（左：5月前半、右：5月後半）

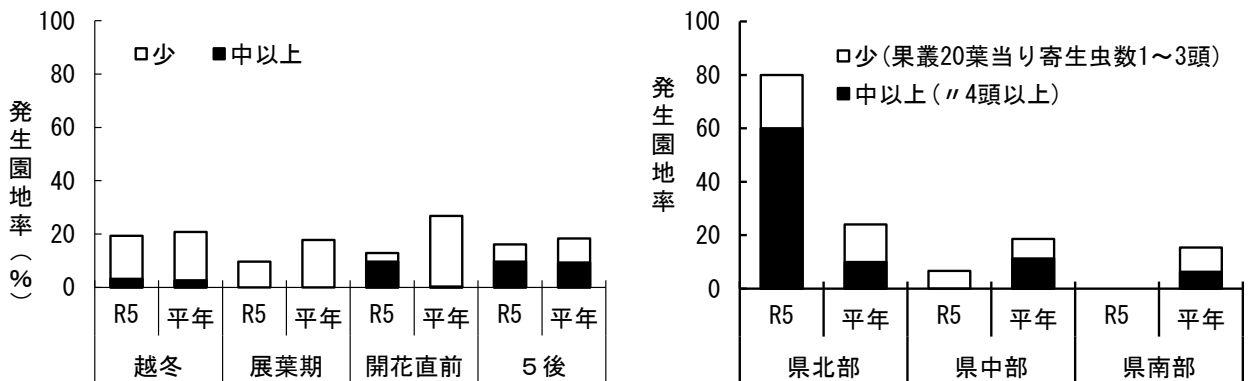


図11 ナミハダニの時期別発生状況の推移

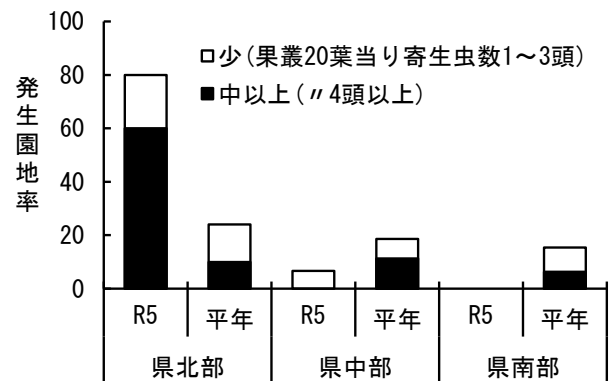


図12 ナミハダニの地域別発生園地率（5月後半）

## 9 ヤナギルリチョッキリ

- (1) 5月前半の巡回調査での発生園地率は25.8%（平年18.8%）で、平年よりやや高かった（図13）。

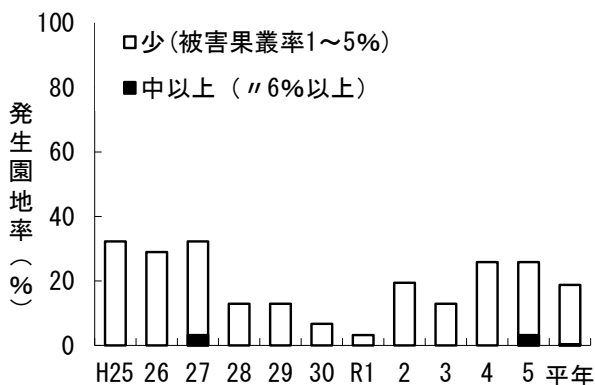


図13 ヤナギルリチョッキリの発生園地率の年次推移（5月前半）

## 10 モモシンクイガ

- (1) 基準圃場（北上市成田：無防除）におけるフェロモントラップには、平年より1半旬早い5月第4半旬に誘殺が確認された（図省略）。

## 11 キンモンホソガ

- (1) 基準圃場（北上市成田：無防除）におけるフェロモントラップの越冬世代の誘殺は、4月第2半旬に羽化盛期が認められ、平年及び昨年より3半旬早かった。5月にも越冬世代の誘殺が認められた（図14）。
- (2) 前年に年間累計誘殺数が多かった現地圃場（盛岡市東安庭）におけるフェロモントラップの越冬世代の誘殺は、平年より多かった（図15）。
- (3) 5月後半の巡回調査において、第1世代幼虫の発生圃地率は45.2%（平年11.6%※）で平年より高く、発生程度中以上の圃地は19.4%（平年3.9%※）で平年より高かった（図16）。  
※平年値は6月前半調査のものを参考として使用。
- (4) 5月後半の巡回調査において、一関地区を除くすべての地区で発生が確認され、盛岡、花巻・北上、奥州地区では発生程度中以上の圃地が見られた（図17）。

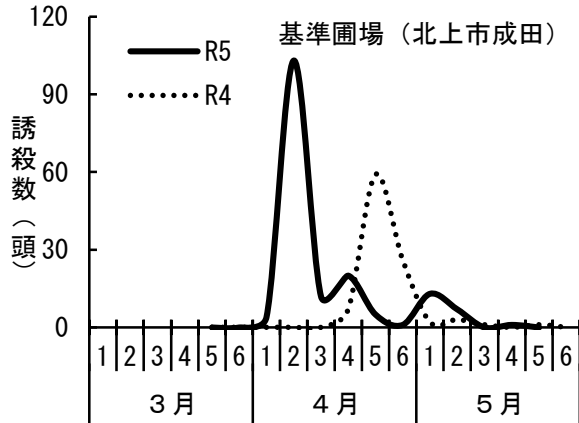


図14 基準圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況

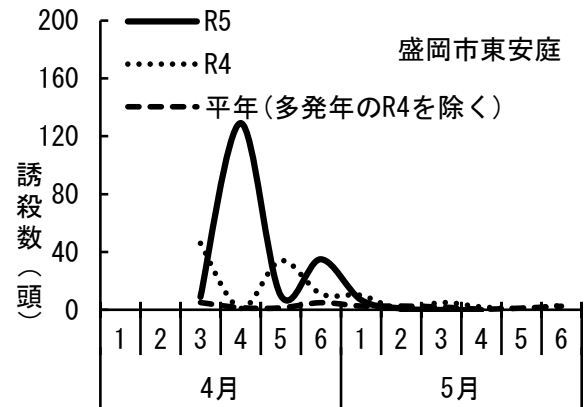


図15 盛岡市東安庭におけるキンモンホソガの誘殺状況

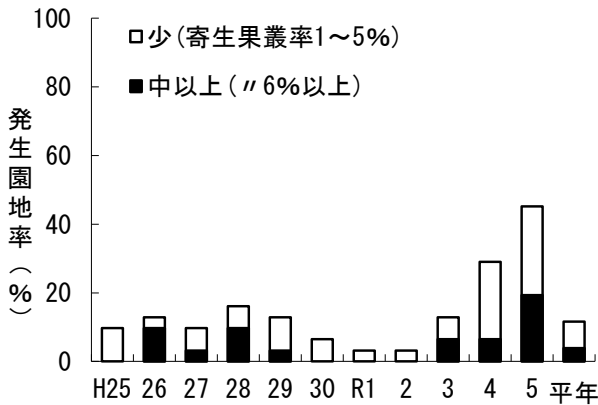


図16 キンモンホソガの発生圃地率の年次推移  
（果叢葉）※R5を除くすべての値については6月前半調査のものを参考として使用

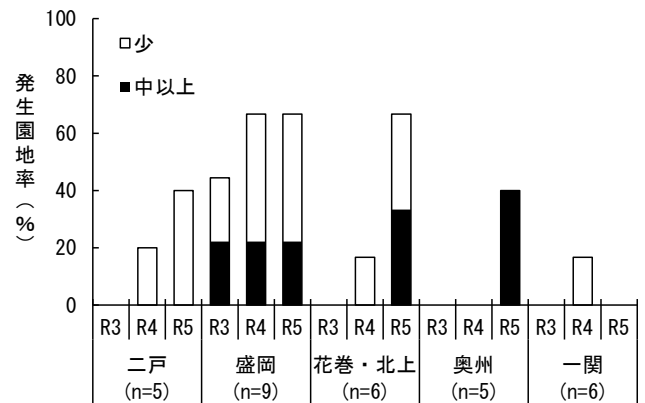


図17 キンモンホソガの地区別発生圃地率  
※R4及びR3の値については6月前半調査のものを参考として使用



## 12 ギンモンハモグリガ

(1) 5月前半の巡回調査において第1世代幼虫の発生は確認されなかった（平年2.9%、図18）。

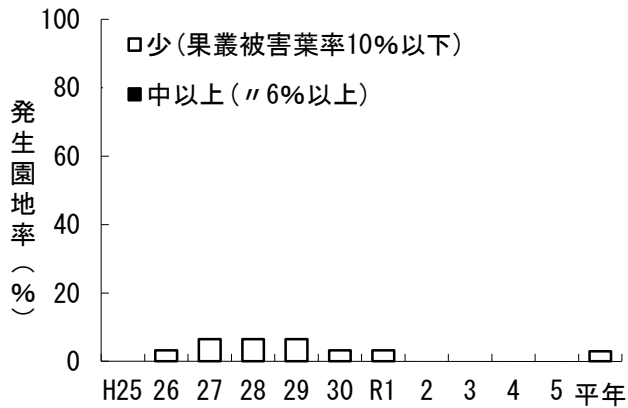


図18 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移 (5月前半)

## 13 果樹カメムシ類

- (1) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃場（北上市成田：無防除）では、5頭以上の誘殺が1回あった。現地園地（盛岡市川目）では5頭以上の誘殺はなかった（図19）。
- (2) 予察灯におけるクサギカメムシの誘殺は、北上市成田、盛岡市川目ともに、それぞれ5月第5半旬までは確認されていない（図20）。

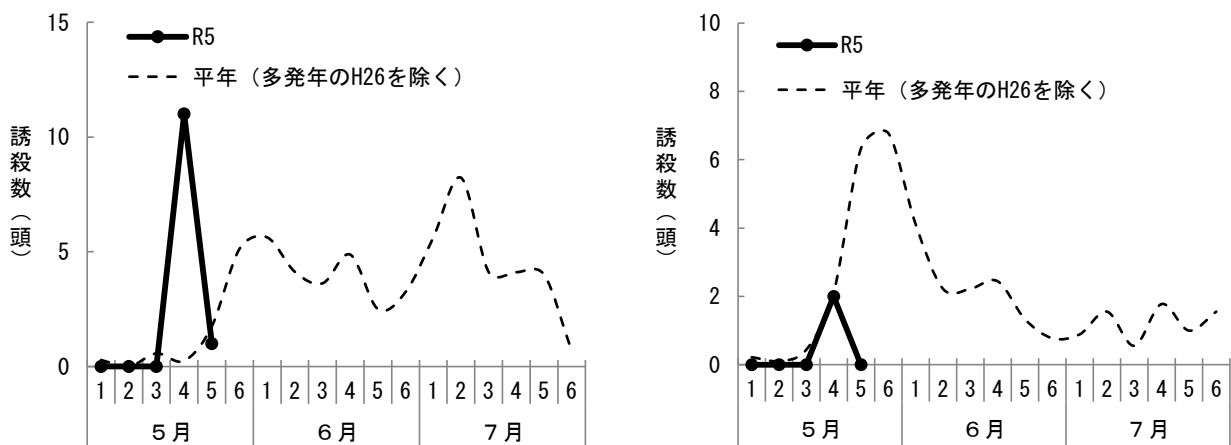


図19 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況 (左：基準圃場（北上市成田）、右：盛岡市川目)

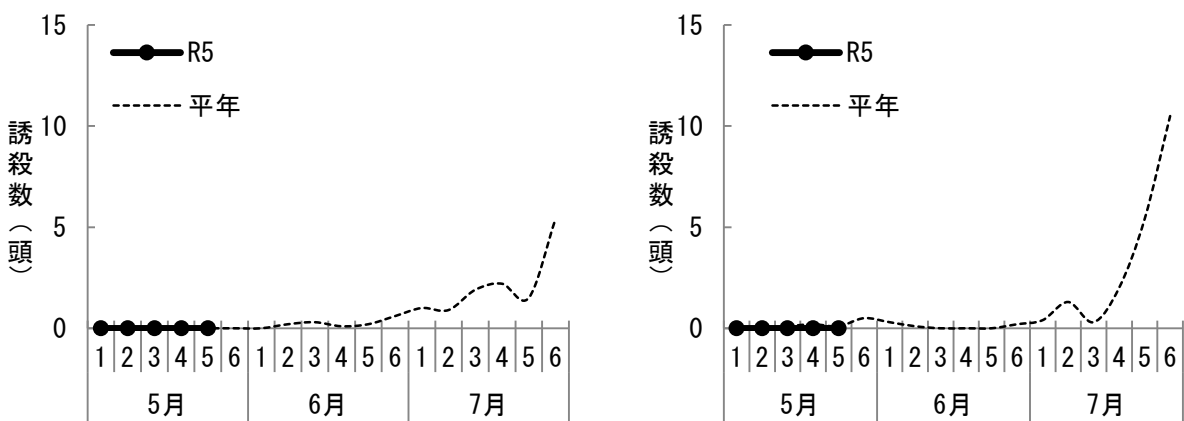


図20 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況 (左：北上市成田、右：盛岡市川目)

# 農作物病害虫発生現況情報（5月）キャベツ編

## 1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、4月第1半旬から認められ、5月第5半旬までおおむね平年並みに推移した（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、4月第6半旬に大きく上昇し、5月第3半旬まで平年より多く推移した（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第1半旬から認められ、おおむね平年並みに推移した（4月27日設置）（図3）。
- (4) 5月中旬の巡回調査では、産卵圃場は確認されなかった（平年15.7%、図4）。

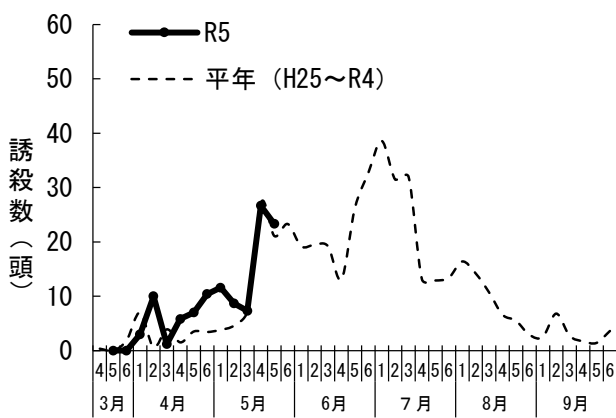


図1 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップの誘殺状況

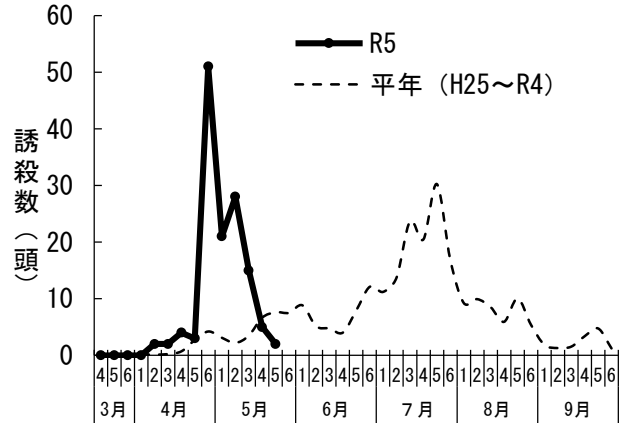


図2 軽米町におけるフェロモントラップの誘殺状況

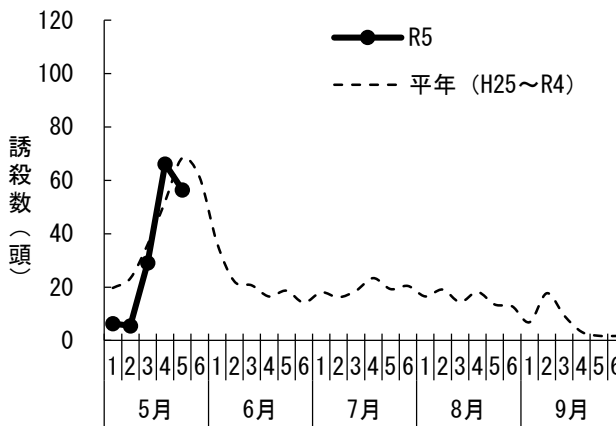


図3 岩手町におけるフェロモントラップの誘殺状況

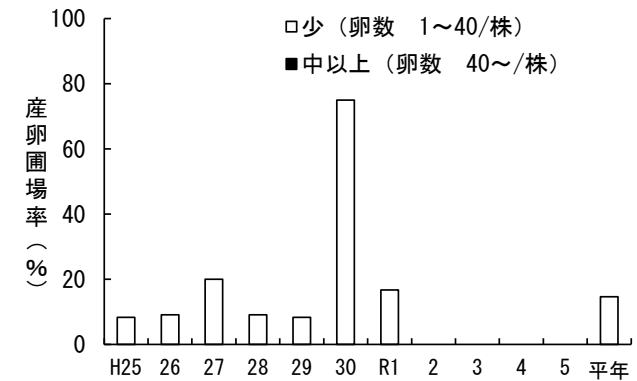


図4 コナガの産卵圃場率の年次推移（5月中旬）

## 2 モンシロチョウ

(1) 5月の巡回調査では、産卵圃場率は20.0%（平年56.9%）であり、平年より低かった（図5）。

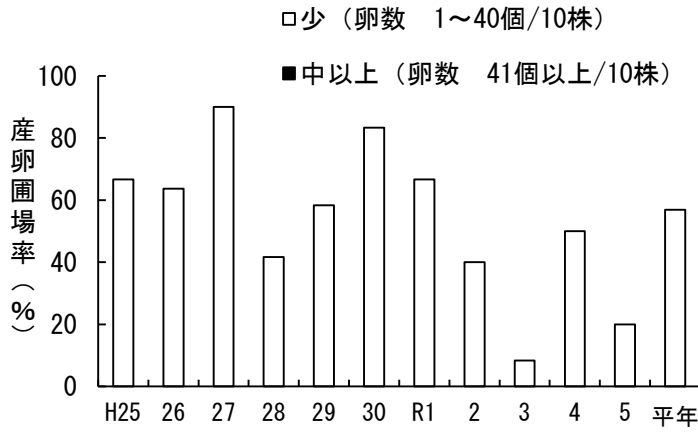


図5 モンシロチョウの産卵圃場率の年次推移  
(5月中旬)

## 3 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第5半旬まで確認されなかった（図6）。
- (2) 基準圃場における産卵は、平年並の5月第6半旬に確認された。
- (3) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第2半旬から確認された（5月5日設置）（図7）。
- (4) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第2半旬から確認された（図8）。
- (5) 5月中旬の巡回調査では、産卵は確認されなかった。

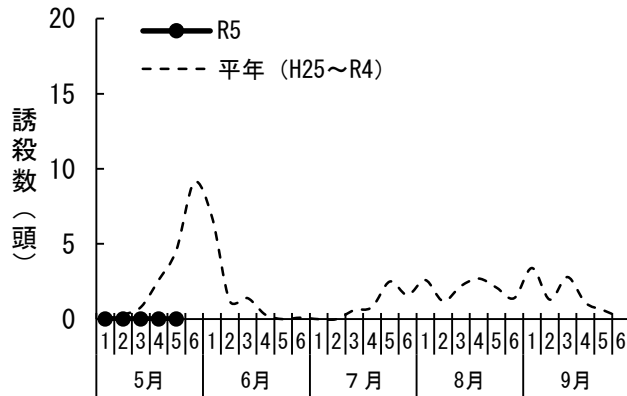


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガのフェロモントラップの誘殺状況

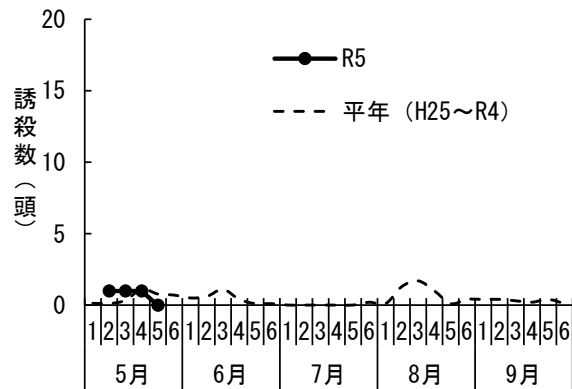


図7 軽米町におけるヨトウガのフェロモントラップの誘殺状況

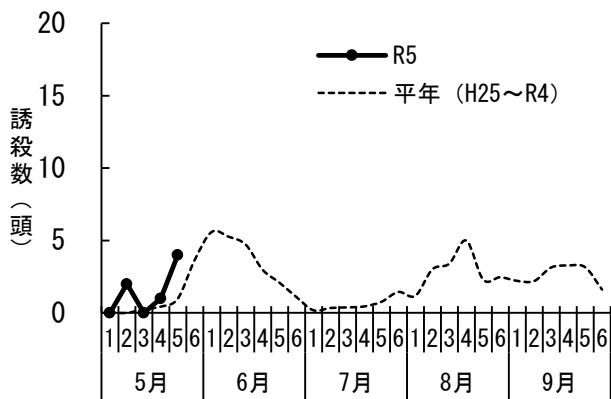


図8 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップの誘殺状況

#### 4 タマナギンウワバ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第3半旬から増加している（図9）。
- (2) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第1半旬から確認された（4月27日設置）（図10）。
- (3) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は、4月第2半旬から確認され、5月第2半旬まで平年より多く推移した（図11）。
- (4) 5月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は80.0%（平年44.8%）であり、平年より高かった（図12）。
- (5) 基準圃場（北上市成田）では、5月第5半旬に産卵が確認された。

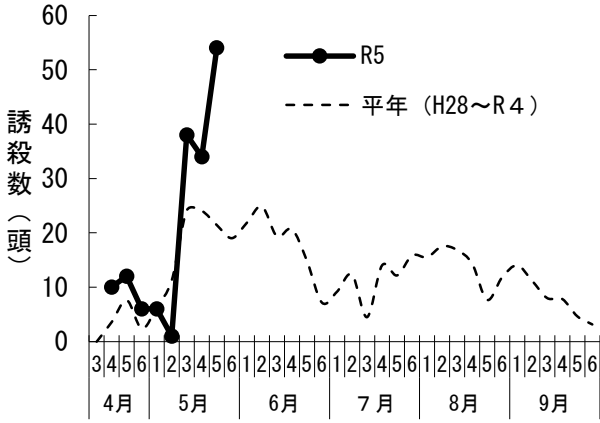


図9 基準圃場（北上市成田）におけるタマナギンウワバのフェロモントラップの誘殺状況

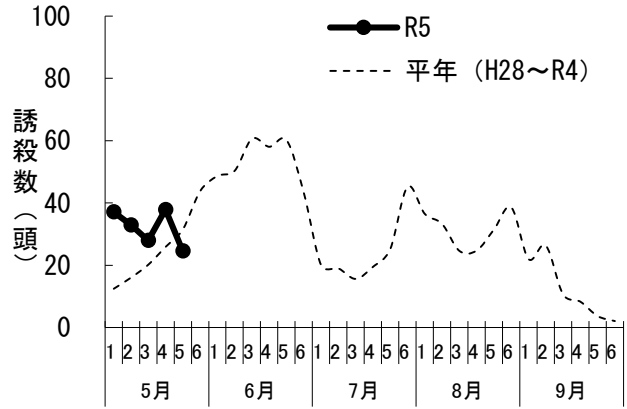


図10 岩手町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップの誘殺状況

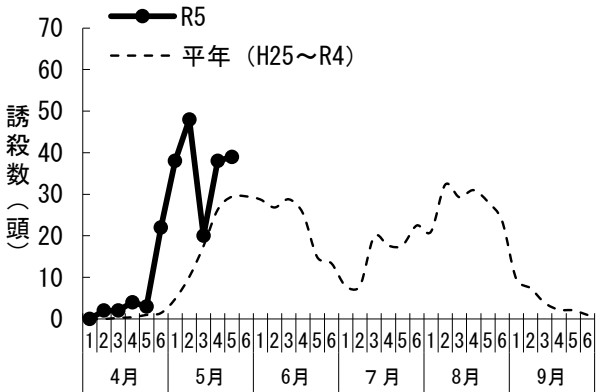


図11 軽米町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップの誘殺状況

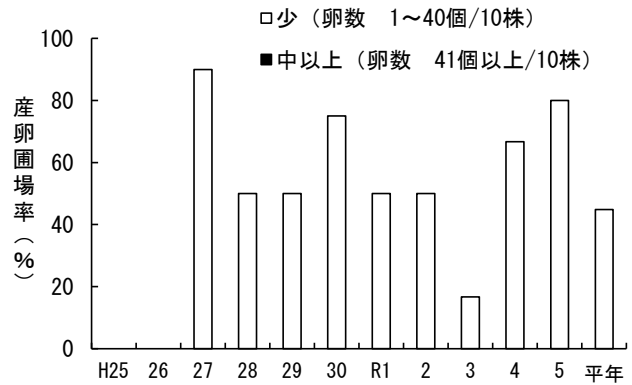


図12 タマナギンウワバの産卵圃場率の年次推移（5月中旬）

# 農作物病害虫発生現況情報（5月） ねぎ編

岩手県病害虫防除所

## 1 さび病

(1) 5月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（図1）。

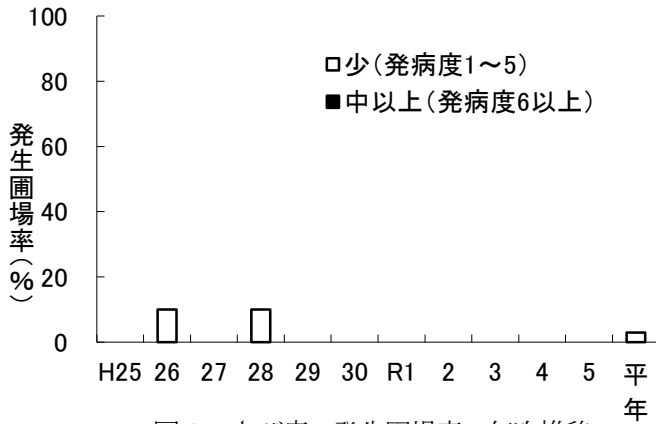


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (5月下旬・発病度)

## 2 ベと病

(1) 5月下旬の巡回調査では、例年どおり発生が確認されなかった。

## 3 ネギコガ

(1) 5月下旬の巡回調査では、幼虫による被害は確認されなかった（平年27.4%）。（図2）

(2) 特定圃場（花巻市山の神）における第1世代成虫の羽化は、5月19日に確認された。

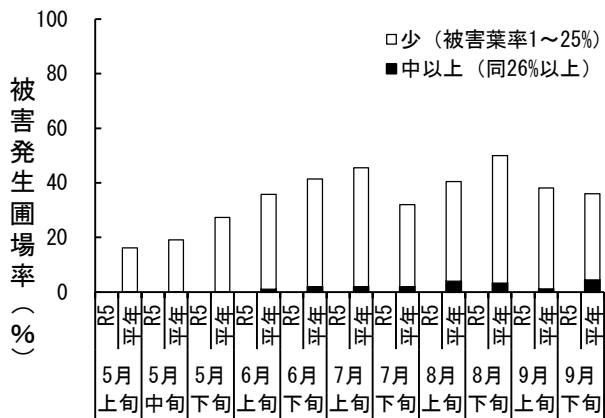


図2 ネギコガの被害発生圃場率の時期別推移

#### 4 ネギハモグリバエ

(1) 5月下旬の巡回調査では、幼虫による被害は確認されなかった（平年9.1%）（図3）。

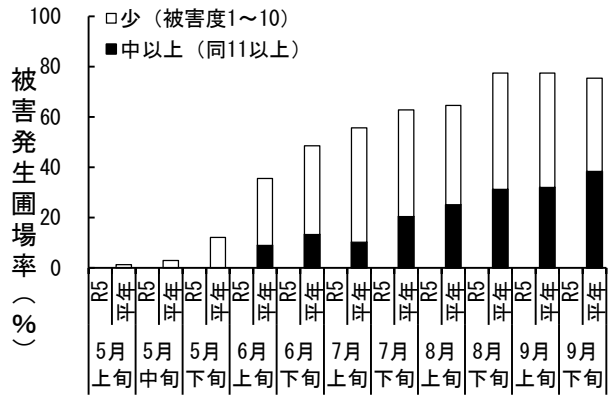


図3 ネギハモグリバエの被害発生圃場率の時期別推移

#### 5 ネギアザミウマ

(1) 5月下旬の巡回調査では、被害発生圃場率は60.0%（平年69.1%）であり、平年並だった（図4）。

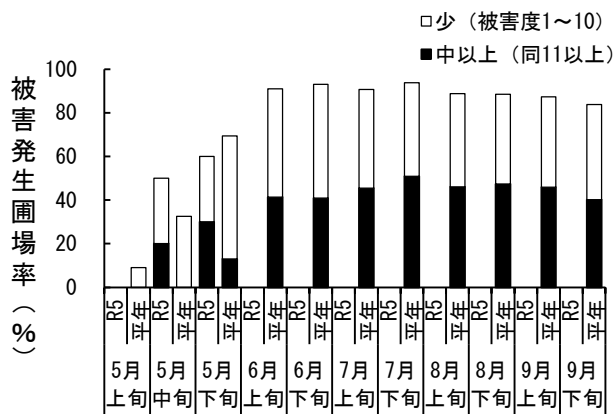


図4 ネギアザミウマの被害発生圃場率の時期別推移

# 農作物病害虫発生現況情報（5月）りんどう編

## 1 葉枯病

(1) 5月後半の巡回調査では1圃場で発生が見られ、発生圃場率は7.7%（平年2.2%）と平年より高かった（図1）。

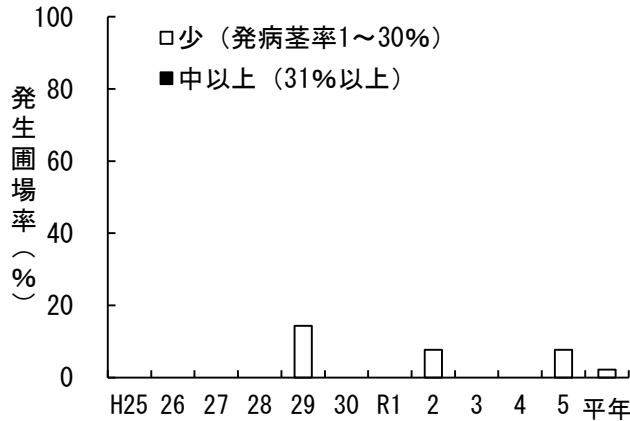


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（5月後半）

## 2 ハダニ類

(1) 5月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年発生圃場率16.0%）（図2）。  
 (2) 基準圃場（北上市）では、5月第6半旬に発生が確認された。

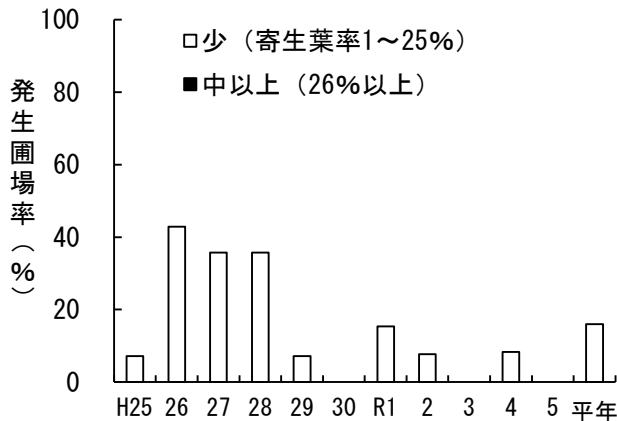


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（5月後半）

## 3 リンドウホソハマキ

(1) 基準圃場（北上市）では、5月第3半旬に越冬世代成虫の羽化が確認された（表1）。

表1 基準圃場（北上市）におけるリンドウホソハマキ越冬世代成虫の初発確認日

年次	R1	R2	R3	R4	R5	例年*
確認日	5月23日	5月28日	5月18日	5月16日	5月15日	5月21日

※令和元～4年度の平均値